

森永卓郎さんのB宝館



【写真】石田 紀彦

Profile 森永卓郎（もりなが たくろう）：経済アナリスト、獨協大学特任教授。1957年、東京都出身。東京大学経済学部経済学科卒業後、日本専売公社、日本経済研究センター（出向）、経済企画庁総合計画局（出向）、三井情報開発株式会社総合研究所、株式会社U.F.J総合研究所を経て、現職。専門は労働経済学と計量経済学。そのほかに、金融、恋愛、オタク系グッズなど、多くの分野で論評を展開している。日本人のラテン化が年来の主張。主な著書に『増補版 年収300万円時代を生き抜く経済学』（ゴマブックス）、『消費税は下げられる！』（KADOKAWA）など多数。

経済アナリストの森永卓郎さんは、コメンテーターとしてテレビやラジオ等のメディアで活躍する一方、趣味のコレクションを展示する「B宝館」という博物館を運営する館長でもある。しかし、今、そのB宝館が実は赤字であると耳にした。

小学4年生の頃、父親の仕事の関係でウィーンに移り住むことになった森永さん。父から買ってもらったミニカーが、異国での暮らしの中で心のよりどころに。その頃から集め出したミニカーを筆頭に、食玩、企業のノベルティグッズ、はたまたペットボトルのキャップなど——普通なら捨てられるようなものまで収集するようになる。

やがて、「博物館を作ったら見に行くよ」という著名人の声か背中を押し、2014年に“B級でピ

ンボーでおバカだけどビューティフル”なB宝館を開館。しかし、都心部から少し離れた埼玉県所沢市にあるこの場所に、「実際に来たのは、さまあ〜ずと、しょこただけ」。初年度より大きな赤字を出し、固定費削減のため、2017年9月より毎月第1土曜日の午後のみ開館としている。

なぜ、経済の専門家である森永さんは、財務上のメリットがないにも関わらず、B宝館の運営を続けているのか。ひょっとしたら、そこに企業が現代社会を生き抜くヒントがあるのかもしれない。

我々は貴重な月1回の開館日を狙って、B宝館を訪問し、現地調査を実施。経営診断報告書を作成のうえ、後日、改めて館長の森永さんに経営診断報告を兼ねた取材を敢行した。

続きは雑誌で